

横須賀高校に生息するトウキョウサンショウウオの 継続的な保全活動と産卵数の増加について

神奈川県立横須賀高校科学部 湯浅実華

トウキョウサンショウウオ *Hynobius tokyoensis* は止水産卵性の小型サンショウウオであり、近年は生息地や繁殖場所の減少により絶滅危惧種に指定されている。神奈川県立横須賀高等学校科学部は本校敷地内で本種の繁殖場所を 2016 年に発見した。しかし、繁殖場所は消失しかけていた。この状態が続けば個体群が消失する恐れがあったため保全活動を約 9 年間行った。

保全活動の内容としては産卵数のモニタリング、水場の整備、一時飼育を主に行った。産卵数のモニタリング方法は繁殖期に観察した卵嚢が 2 房の場合を 1 対、1 房の場合を 0.5 対と数えた。水場の整備として元の産卵場所の他に新たに産卵場所を 6 か所設置した。新たな産卵場所は地面に穴を掘り、ブルーシートを被せたものとトロ舟を置いたものの 2 種類を用意した。一時飼育では採取した卵嚢を孵化させ、プラスチックバット内で飼育した。前肢・後肢が十分に発達した個体は水槽に移して飼育し、変態後は産卵場所付近に放した。

また、トウキョウサンショウウオの生息地付近における動物相を明らかにし、生態系内での相互作用を考察することを目的として、トレイルカメラを用いて水場周辺の動物を観察したところ多様な生物が確認された。

活動の結果、本種の産卵数は活動初年度と比べて 15 倍以上に増加した。活動を開始した 2016 年の産卵数は 11 対であり、その後は緩やかな増加が見られた。活動を開始してから 7 年目の 2022 年には急激な増加が見られ 117 対となった。翌年の 2023 年には 119.5 個となり産卵数を維持し、2024 年には 170 対と更に増加した。2022 年に急激な増加が見られた理由として本種が性成熟するまでに複数年要することが挙げられ、長期間の保全活動が効果的に作用したと考えられる。